

## 小規模企業景気動向調査 [2023年3月期調査]

～人流増加により需要が活性化するも、コスト高騰で持ち直しの動きが鈍い小規模企業景況～

### <産業全体>

3月期の産業全体の業況は、アフターコロナに向けた人流の増加から、全DIが改善し、2期連続の改善となった。マスク着用義務がなくなり、催し等が制限なく開催され始めたことや、インバウンド需要が景況感を上向かせた。一方で、需要が活性化しているにもかかわらず、コスト高騰が採算を圧迫し続けており、コロナ禍で膨らんだ借入の返済や、人手不足の深刻化等、依然として小規模事業者を取り巻く環境は厳しく、持ち直しの動きは鈍い。

DI	2月	3月	前月比
売上額	08	61	53
採算	▲45.7	▲41.0	4.7
資金繰り	▲359	▲327	32
業況	▲299	▲233	66

### <製造業> 2期連続で全DIが改善するも、コスト高騰により度重なる価格転嫁を迫られる製造業

製造業は、2期連続で全DIが改善し、売上額DIは2期連続のプラス水準となった。食料品関連は、全DIが改善し、採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善した。需要回復から受注は伸び始めているが、コスト高騰が採算性を圧迫し続けており、価格転嫁交渉に難航する事業者も多いとのコメントが目立った。繊維関連は、全DIが大幅に改善し、特に売上額・業況DIは2桁ポイント改善した。機械・金属関連は、全DIが小幅に改善。売上額DIは3期連続プラス水準となった。

DI	2月	3月	前月比
売上額	49	104	55
採算	▲51.7	▲45.2	6.5
資金繰り	▲382	▲31.1	7.1
業況	▲321	▲24.3	7.8

### <建設業> 人手不足による工期延長とコスト高から、資金繰りが悪化する建設業

建設業は、年度末の受注増加から売上額DIは小幅に改善し、2期連続のプラス水準となったが、資金繰りDIは小幅に悪化した。人手不足による工期の延長でより多くの人件費が発生し、更に受注から工事が完了し売上が入金するまでの期間も延びる傾向にあり、資金繰りが悪化する負のスパイラルに陥っている。資材やエネルギー価格高騰によるコストの増大と相まって、予断を許さない状況が続いている。

DI	2月	3月	前月比
売上額	39	64	2.5
採算	▲45.4	▲44.3	1.1
資金繰り	▲34.9	▲39.8	▲4.9
業況	▲25.7	▲25.0	0.7

### <小売業> 物価高から消費者の購買意欲が高まりきらず、他業種との差が開き始めた小売業

小売業は、全DIが2期連続の改善となり、売上額・資金繰り・業況DIは大幅に改善。売上額・業況DIは直近1年で最も改善した。コロナ禍に比べると消費は高まりつつも、物価高からの買い控えも一部みられる中、コスト高騰もあり、思うように収益確保ができていない、とのコメントがあった。衣料品関連は、全DIが大幅に改善した。新型コロナウイルス感染症の5類入りが発表された1月頃からファッション需要が高まっている。食料品関連は、売上額・業況DIは小幅に改善したが、採算DIは小幅に悪化した。耐久消費財関連は、全DIが大幅に改善し、特に売上額・採算・業況DIが2桁ポイント改善した。

DI	2月	3月	前月比
売上額	▲9.6	▲2.1	7.5
採算	▲50.4	▲46.5	3.9
資金繰り	▲43.0	▲37.5	5.5
業況	▲39.9	▲31.2	8.7

### <サービス業> コロナウイルス感染症の落ち着きから人流が増加し、活気を取り戻しつつあるサービス業

サービス業は、観光客の増加や、コロナ禍で中止していたイベントの再開により、全DIが大幅に改善。売上額DIは2期連続のプラス水準となった。旅館関連は、インバウンド需要が高まり、全DIが大幅に改善した。売上額DIは昨年8月期からプラス水準であり、今期は業況DIもプラス水準となった。クリーニング関連は、全DIが改善し、売上額・採算DIは大幅に改善した。理・美容関連は、卒業式や入学式に向けた需要から、売上額・採算・資金繰りDIは小幅に改善し、業況DIは大幅に改善した。

DI	2月	3月	前月比
売上額	39	95	5.6
採算	▲35.4	▲28.0	7.4
資金繰り	▲27.6	▲22.1	5.5
業況	▲21.8	▲12.5	9.3

### 調査概要

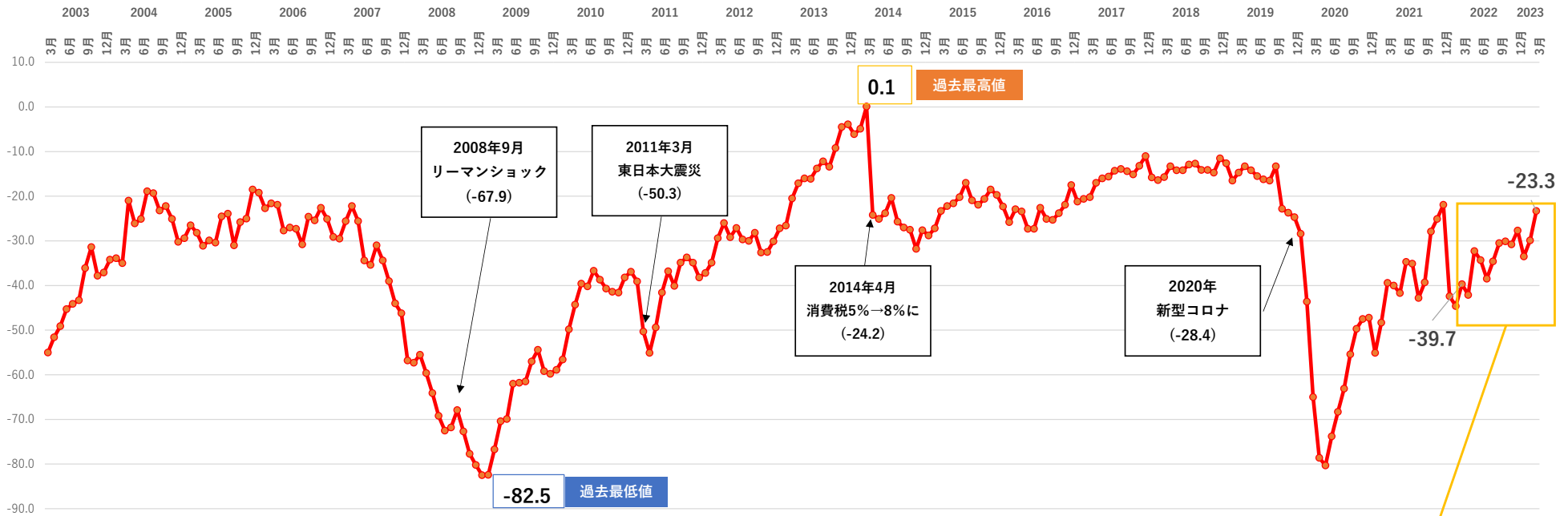
・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2023年3月末

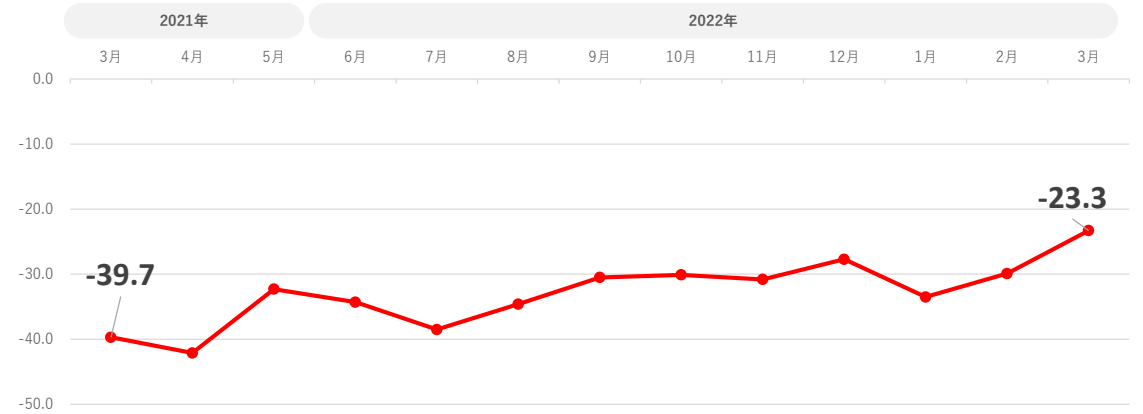
・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

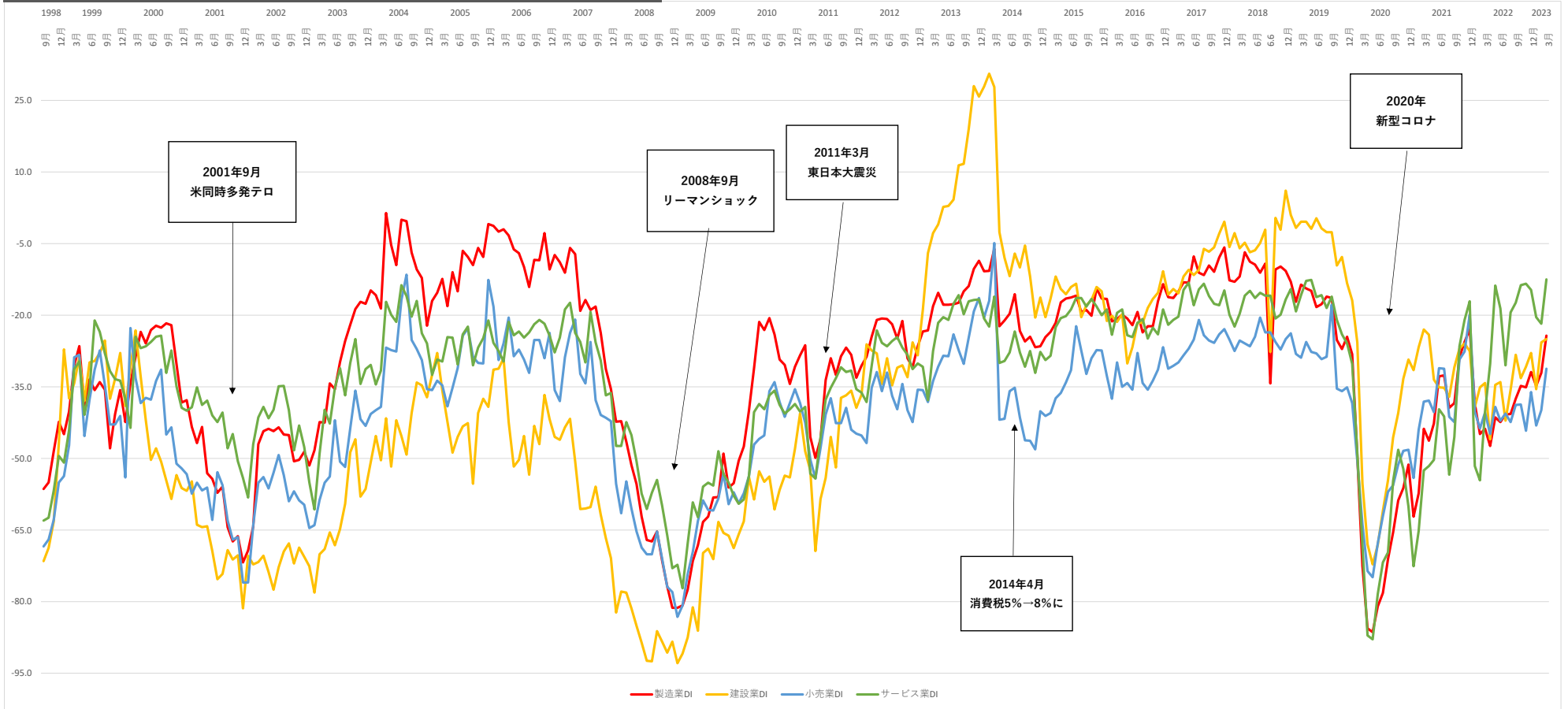
# 小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



## 産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査 産業別の業況DIグラフ～ 過去調査から現在まで



## 小規模企業景気動向調査(3月期)における商工会経営指導員の主なコメント

\*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

### 1. 景気全般

#### <改善傾向を示すコメント>

外国人旅行客の姿も増え、観光関係およびそれに付随する業種の回復傾向が見受けられる。

(仙北市商工会)

新型コロナウイルスの感染者数の全国的な減少により、飲食業をはじめとした消費が回復傾向にある。

(小出商工会)

マスク着用義務化がなくなり、卒業式などの慶事が通常通り開催されるようになったことから、服飾関係や理美容業、飲食業等に大きなプラスの影響があったようである。

(朝日商工会)

観光業は、急激に需要が回復し今もなおその状態は継続している。平日の日中も町内の駅周辺や温泉街では、必ずと言っていいほど外国人観光客を見かける。中には一般の日本人とは金銭感覚がかけ離れた富裕層のインバウンドもいる。宿泊施設や土産物店では、補助金を活用して施設改修を行うところも複数あり、そうしたインバウンドの受け入れ態勢整備や物価高に伴う宿泊単価アップに備える動きがある。

(山ノ内町商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

電気、燃料価格の高騰に加え、仕入れ価格の高騰により少しずつ回復していた飲食店の経営状況を圧迫している。また、全国的な鳥インフルエンザの流行により卵の仕入れ価格が大幅に上昇、安いときの2倍近くになっているとの情報もあり、しばらく改善する見込みもなく、苦しい状況が続く。

(中泊町商工会)

コロナの制限が緩和されたことでお客様が戻ってはいるものの、光熱費・原材料高騰により採算が悪化している。また、人手不足により十分な営業が出来ていない。

(玉造商工会)

マスク着用が個人の判断となったことで一部の業種で売上増加も見られるが、物価高騰の影響が強く消費者に買い控えの傾向がみられる。原材料費、燃料費等の高騰に価格転嫁が追いついておらず、利益確保が難しい状況となっている。

(かづの商工会)

原材料費、光熱費の高騰を受け、仕入れ価格の上昇により販売価格をあげる事業者も多くそれにより売上高が上昇しているものの経費増加分全てを販売価格に転嫁できておらず利幅は減少し、採算が悪化している事業者がみられる。前年と比べアフターコロナに向かっており、人の動きは活発になっていると感じる。

(海津市商工会)

後継者不足が多く、この年度末に同じ地域で一気に4~5件の小規模事業者が廃業となった。事業承継をする間もなく廃業となり、地域としては寂しくなる。この景況では引き継いで事業をやっても難しいと判断されたよう。引き継ぐ方も地域におらず、残念であった。

(米原市商工会)

コロナ禍の影響はゆるやかに回復傾向にあるが、それ以上に物価高等による仕入や経費の上昇が悪影響を与えており、売上は回復しても利益率が一向に上がらない厳しい状態となっている。大企業では相次いで賃上げのニュースが飛び交っているが小規模事業者は賃上げを実行できる状況ではない。

(和木町商工会)

コロナの5類移行による期待感と、原材料高騰の長期化による不安感が、業種によってはっきりと分かれて現れた。消費者の動向として、最寄り品は価格が上がっても以前のような買い控えは起きなくなったが、住宅や車などの高価な品は著しく需要が落ちている。

(真庭商工会)

コロナに関する規制が緩和され、人の流れがより活発になることで消費の活性化に期待は大きいですが、仕入れ・原材料・人件費等負担大きく、資金繰り等への不安も残っている。

(戸田市商工会)

感染者減少とマスク着用解除によるコロナ収束感の強まりから経済活動が活発化してきているものの、コロナ禍での売上不振により借入額を積み増した企業は多く、物価高が続く中で金利上昇の懸念や返済に対する不安もあり安易に賃上げできない企業も多い。受注単価や売価の見直しなどでようやく好循環が見え始めているところであり、返済の目途が立つには暫く時間がかかりそうな状況。

(富山市八尾山田商工会)

## 2. 製造業

### <改善傾向を示すコメント>

季節のイベントが増えつつあり、レジャー等外出の機会が増加傾向にあるため、顧客の購買意欲の向上が見受けられる。

(笠松町商工会)

インバウンドの訪日外国人が増加し観光事業が回復しつつあり、それに伴い繊維工業関係や食料品製造業にも動きが出始めている。

(丹波市商工会)

製造業については、原材料等コスト分の転嫁は概ね出来ているが、家族経営等の小規模零細事業者の一部では、価格転嫁が出来ておらず経営状況が厳しい事業もある。

(石央商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

食料品製造業:仕入単価は何度も上昇しているが、値上げは1回行った後は、値上げできていない。電気料やガソリン代の高騰対策は出来るだけ継続していただきたい。機械金属製造業:仕入単価、水道光熱費は上昇したが商品単価に反映できていない、現在取引先と交渉している所であるがなかなか難しい。

(中之条町商工会)

食料品製造関連の事業者は物価高騰に加え、燃料高騰により採算、資金繰りに影響がみられる。機械金属製造業関連の事業者は物価高騰により仕入れ価格、電気料などの高騰により採算に影響がみられる。

(新ひだか町商工会)

食材価格の高騰、特に卵価格が継続的に上昇していることにより菓子製造業を筆頭に利益減少による販売価格の値上げをせざるを得ない状況になってきている。それに加え、電気代も高いままで業種問わず影響が広がっている。

(中泊町商工会)

食料品製造業については、材料代の高騰、特に卵や小麦、油、包装資材など、多くのものが上がっており、全てが価格転嫁できていないため、採算が厳しい。機械製造業についても、同じく資材や運搬費の高騰により、厳しい状況が続いている。

(糸島市商工会)

<食料品>一部海鮮物の不漁はあるものの、飲食店等での使用量が増加傾向にあるため、おおよそ好調。ECに加え、自販機等での直販に取り組んでいる企業もあり、販売方法の変化が目立つ。<繊維工業>マスク不要によって、化粧品はもちろん、アパレル産業においても来店客数は回復傾向にあり、繊維業界においては衣料品製造を中心に好転している事業者が多い。<機械・金属>受注が途切れることなく、コロナ前と比較しても売上が増加しているところが多い。中には物価高の影響で採算の悪化している事業所もあるが、やはり一番の課題は人手不足である。

(射水市商工会)

製造業については、物流機能の停滞や品不足が改善方向に向かっていることから、全般的に売上は増加傾向になっています。製造業関係は全体的に材料価格が上昇、機械金属関連については材料価格が昨年と比較して倍以上上昇しているという事業者も見受けられ、価格転嫁が難しい事業者の収益を圧迫しています。

(宝達志水町商工会)

原価等上昇に苦勞されている事業所が多い。一方、価格交渉については比較的進んでいる事業所も多いため、業界内でも、ある程度の理解が得られているように思われる。しかし、人件費の上昇やインボイス制度の対応もあるため、交渉や取引先の調査など対応に追われている様子が見えがえる。

(岡山北商工会)

食料品は、町内で様々なイベントが再開され、人の動きが活発になっている。更に3月から値上げを実施したこともあり、昨年と比較すると売上は増加している。しかしながら原材料の値上げは未だ続いており、今後の値上げも予告されている。繊維工業は、受注は安定しているが、材料高騰や運送コスト上昇により利益を圧迫している。効率的な生産体制の整備が課題となっている。機械・金属は、昨年対比受注量が増加するも仕入価格の高騰により利益圧迫。受注量の増加も、まだまだ利益が確保できる程にはなっていないのが現状で、先行きが見えない状態となっている。

(岩美町商工会)

### 3. 建設業

#### <改善傾向を示すコメント>

原材料価格は高い状況となっているが、公共工事などの仕事依頼が増えてきている。

(射水市商工会)

年度末の公共工事が繁忙期を迎えており、元請並びに下請けは業況は顕著に推移。

(大月市商工会)

受注は伸びている。職人が不足している点が問題

(金井商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

原油価格の高騰により、資材価格も値上がりし、工事見積金額等立てづらいつのここと。資材発注業者から4月、6月に段階的に値上げするとのこと。来月の工事も少しずつ入ってきている。今月中まで完成させる公共工事があり、業務に追われている。

(由利本荘市商工会)

原材料等の高騰により建築単価の上昇で新築工事の価格上昇で工事予定のキャンセルや延期が出てきている。

(北塩原村商工会)

年度末の公共工事受注等、売り上げに関してはある程度上昇傾向にあるが、建設資材やエネルギー価格高騰など、経費増大に伴う利益圧迫により、思ったほどに利益確保に至っていないのが現状である。受注はあるが、職人の人手不足が続いており、建設業界にとっては人材確保も大きな課題の一つとして捉えている。

(会津美里町商工会)

物価高騰の煽りで電気・ガス代・仕入れ値等が2~3割上がっている。人件費もあげたいが非常に厳しい。部材も入ってくるのが遅れている。

(調布市商工会)

建設業において、災害復旧関連の受注があり取引量は増加している。一方で、住宅建設については、CO2削減を目的とした高気密住宅に関連する法改正等も重なり、単価が高くならざるを得ない状況となっているため、商談が決まらない案件が増えてきている。

(畑野商工会)

同業者の廃業により、受注は増えている。人手不足は慢性的。

(福井北商工会)

受注はあっても、それをこなせる人材を確保しておらず、せつかくの取引を断らざるを得ない状況がある。受注をしたとしても、売上入金は完成後のため、人件費の支払を優先すると資金繰りがかなり苦しい状況が続いている。

(北茨城市商工会)

建設業者の中でも公共工事受注先は、年度末を控え工事完了に向け一段と多忙を極めている。建築関係、特に下請業者は、引き続き原材料価格高騰が利益を圧迫している状況。

(北栄町商工会)

建築関係において、仕入単価の高騰分はお客様への見積額に乗せているものの、価格が原因で契約に繋がらないケースもあるため、全てが価格転嫁できていない。

(唐津上場商工会 経営支援センター)



建設業も建設資材や移送費の値上げの状況により、採算はよろしくないようである。但し、年度末により、受注は多いようである。

(糸島市商工会)

鉄材価格は高止まりして木材価格は少し下落してきているが、生コンクリートの価格高騰が経営を圧迫しているという意見があった。

(新富町商工会)

#### 4. 小売業

##### <改善傾向を示すコメント>

食料品小売業は、好調を維持しているが、光熱費の高騰は想像以上に厳しいと感じる。衣料品小売業は、売上はさほど変化はみられない。価格転嫁にはなかなか踏み切れないが、このままこの状況が続いていくといずれ必要に迫られ、苦渋の決断をする時期が来ると思う。

(檜葉町商工会)

食糧品小売業では、仕入単価は増加しているが売上高も増加傾向である。5月からのコロナの5類移行を目前に、徐々に消費回復の影響を受けている事業者も増えている。

(真庭商工会)

一定の価格転嫁もあり、食品売上は微増。但し、仕入れ価格も上昇している為利益率は変わらない。

(小平町商工会)

##### <悪化傾向を示すコメント>

長引く物価高騰の影響により、消費者の消費動向も低調であり、売上・利益に大きく影響している。取引先についても、これまでのお付き合いから継続した発注を行っていたが、物価高騰の長期化により自社利益確保の観点から少しでも安く取引できる大手との取引に移行する動きなどがみられ、小規模事業者が取引先から外されるケースも出てきているようである。

(会津美里町商工会)

衣料品小売業は、通常の小売に関しては仕入単価が少し上がっているほかは前年と大きく変わらない。食料品小売業は、ほぼすべての商品で仕入単価が上がっているが販売価格へは一部しか転嫁できないため、採算は悪化している。家電小売業も仕入単価が上がった商品が増えてきているが、概ね前年並みである。

(妙高高原商工会)

小売業は全般的に、昨年と比べると売り上げが動いてきている。一方で係る経費は増大化の一途をたどっており、状況は良くはなっていない。今後さらなる値上がりが様々な分野で懸念されており、消費者の購買意欲の低下が加速していくと状況は更に悪化していく。

(中央市商工会)

毎月のようにメーカーから食料品の値上げ通知が届いており、4月以降も次々と値上げが行われる予定。売上も前年度と比較すれば回復傾向にあるが、それ以上に仕入れ価格が上昇しているため、利益率は厳しい状態が続いている。

(和木町商工会)

衣料品関係の事業者は燃料費高騰の影響を受けて、仕入れ価格の上昇はもちろんのこと消費者の買い控えもあり業況は悪化している。食料品小売業は、売上は増加しているが、値上げによるものであるため、収益の改善には至っておらず、やや悪化しているくらいである。

(諫早市商工会 西部支所)

小売業全般において、物価高騰に伴い消費者の消費マインドが冷え込んでおり、買い控えが続いている。

(松浦市福鷹商工会)

仕入価格の上昇が続いており、価格転嫁が思うようにはいかず、収益を圧迫している。

(丸森町商工会)

原油高、物価価格の高騰で採算は悪化傾向。容量を減らして価格をそのままにするか、価格を上げるか悩んでいる。試しに高齢者向けの商品の容量を減らして販売価格を変えずに提供すると売れ行きは下がった。

(養老町商工会)

食料品の急激な値上げの影響で販売価格を上げざるを得ない状況で、購買力が低下し客離れがさらに進んでいる

(宍粟市商工会)

## 5. サービス業

### <改善傾向を示すコメント>

宿泊業については、人流の回復と全国旅行支援の効果もあり前年同期比30%超の増となっている事業者もあり、回復基調は継続している。

(石央商工会)

宿泊業は、コロナの5類化への議論や、マスク自己判断など、いよいよafterコロナとなってきたことで売上が動き出している。観光地に外国人客も戻ってきており今後期待がかかる。一方で経費は増加しており、従来よりもシビアな数値管理が必要不可欠となっている。

(中央市商工会)

3月中旬から入込観光客が増加しており、稼働率が上がり売上高は増加している。このことに付随して派生する業種について(飲食等)も売上は増加傾向。これからゴールデンウィークにかけ予約等で埋まり景況もほぼプラスに動いている。

(屋久島町商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

コロナで従業員を解雇したこともあり、需要は回復しているが人手不足で顧客のニーズに対応できない事業所もある。

(備前東商工会 吉永支所)

サービス業全体的には、やはり光熱費の高騰は景況に影響を及ぼしている。特に電気料金の値上げが厳しい。理美容関係は好転していて、顧客が戻ってきている。光熱費や仕入れの高騰は今後の経営を圧迫していくと危惧する事業者が多く存在している。

(檜葉町商工会)

新型コロナウイルス感染症の感染者減少や全国割の影響で宿泊者が回復傾向であるが、原材料費の高騰や光熱費の高騰により利益率は悪くなっている。なかなか設備面で客単価UPに限界がある

(高山北商工会)

理美容業でも商品などの単価が上がって値上げに踏み切っている事業者が少なくない。飲食店においても材料などの値上げにより、料金の値上げをされているところが増えてきている。

(糸島市商工会)

旅館の宿泊客は全国旅行支援の利用者が9割以上であり、3月は売上も好調である。6月末まで全国旅行支援が延長になったこともあり、今後も期待できる。一方で、人手不足の問題が顕著になっており、時給1500円でも中々入らず、外国人労働者の雇用に関心が高まっている。

(唐津上場商工会 経営支援センター)

旅館宿泊業は、前年と比較して行動制限やマスク着用が緩和されたため、客足はさらに回復傾向にある。洗濯業は価格転嫁がうまくいっていないこととガス代をはじめとする光熱費が値上がりしているため、採算性の面では悪化している。

(諫早市商工会 西部支所)

洗濯業関係では、売上は大きく変わらないが水道光熱費の上昇が止まらない状況であり、利益悪化が著しい。理美容業も同様に、水道光熱費の上昇で利益幅が薄くなっているが、外出機会の増加もあり売上が若干増加傾向にある。

(川辺町商工会)

宿泊業においては、人流回復による宿泊客増化で売上は増えているものの、それ以上に光熱費の上昇がみられる。理美容業においても一部事業者は値上げしているが、高齢者利用の多い店舗(＝事業者も高齢であるケースが多い)は値上げができておらず、採算は悪化している。

(安芸高田市商工会)

理美容業は前年同月比では、売上・仕入額共に増加。コロナ前の水準に戻りつつある。旅館・宿泊業は仕入れ価格や光熱費の高騰により利益を圧迫。価格改定もしくはサービスの見直しを余儀なくされている。

(柳川市商工会)